

## 感染症専門部会「報告書」概要

## 検討の経緯等

## 1 専門部会への検討依頼事項

福岡市病院事業運営審議会への諮問事項について検討を行い、審議会へ報告を行う。

## 《福岡市病院事業運営審議会への諮問事項》

- 市民病院における感染症医療についての役割
- その役割を果たすための取組み

## 2 専門部会委員

(敬称略)

職名	氏名
九州大学病院 院長	赤司 浩一
福岡大学病院 院長	岩崎 昭憲
九州医療センター 院長	森田 茂樹
原三信病院 理事長	平 祐二
福岡市医師会 会長	平田 泰彦
九州大学大学院医学研究院 助教	入江 芙美

## 3 検討経緯

## 第1回部会 新型コロナ感染症禍における市民病院の対応の「検証」

令和3年10月28日 新型コロナ感染症禍における市民病院の対応の「検証」を行い「評価」と「課題」の明確化を行った。

## 《検証の視点》

- 【評価】 新型コロナ感染症に対する医療の提供（外来診療・入院診療）  
「感染症指定医療機関」「公立病院」として相応の取組みを行ったか  
新型コロナ感染症以外の一般医療の提供（外来診療・入院診療）  
「できる限りの患者の受入れ」や「適切な医療の提供」を行ったか
- 【課題】 人員体制、施設・設備、医薬品・医療機器等における課題

## 第2回部会 市民病院における感染症医療のあり方（役割と取組み）

令和3年12月2日 新型コロナ感染症禍の検証で明確化した「評価」と「課題」を踏まえ、市民病院における感染症医療についての「役割」と「取組み」を検討した。

## 《検討の視点》

- 【役割】 ① 感染症に対する医療の提供  
② 感染症発生時における一般医療の提供  
③ 新たな役割（地域医療への貢献）
- 【取組】 ① 人員体制の強化、② 施設・設備の機能向上、  
③ 医薬品・医療機器等の確保、④ その他

## 報告書の概要

### I 福岡市民病院における感染症医療の沿革等について

#### 1 市民病院の概要

- ・平成元年5月に開院した市民病院は、感染症病床4床を含む204床の病床、職員397名、19の診療科を有している。※令和3年5月1日現在

#### 2 市民病院における感染症医療の沿革

- ・昭和55年に「こども病院・感染症センター」が開院。
- ・その後、平成20年に感染症センター廃止の方向性が示され、平成26年に同センターは閉鎖されたが、市民病院では、平成26年に第二種感染症指定医療機関に指定され、翌年4月に感染症内科を開設、結核を除く二類感染症患者の受入機関となった。また平成27年には新型インフルエンザ等対策特別措置法に係る指定地方公共機関として指定された。

### II 新型コロナ感染症禍における市民病院の対応の「検証」

#### 1 福岡市の新型コロナ感染症陽性者の動向

- ・福岡市の新型コロナ感染症の陽性者数は、市で初めて確認された令和2年2月20日から令和3年9月末まで合計34,170人であり、年代別では30才代以下で全体の64%となっている。

#### 2 市民病院の対応の検証

##### (1) 新型コロナ感染症に対する医療の提供

- 感染症指定医療機関としての評価
- ◎公立病院としての評価

##### ① 外来診療

- 【評価】○指定感染症になる前から疑似症患者を受け入れるなど、**発生初期から最前線に対応した**
- ◎一般医療機関での体制が整うまで、**感染者の早期発見、拡大防止にあたった**

- 【課題】 [人員体制] PCR検査増に伴う検体採取医の負担が増えた
- [施設・設備] PCR検査場所や待機場所が不足した

##### ② 入院診療

- 【評価】○発生初期から**疑似症を含む軽症から重症までの患者を積極的に受け入れた**
- ◎**県内最大の専用病床を確保し、福岡でもっとも多くの患者を受入れた**
- ◎透析患者のための設備改良やECMO増設など**重症患者の受入体制を強化した**

- 【課題】 [人員体制]
  - ・感染症内科医が常勤2名で、感染が急拡大した際の対応に限界があった
  - ・新型コロナ感染症はICU並の看護配置が必要で、それ以外の患者受入れに影響した
- [施設・設備]
  - ・感染症を考慮していない古い施設のため動線確保等による患者受入の困難さがあった
  - ・一般病棟を感染症病床へ転化したことで、空床が発生するなど非効率な運用となった
- [医薬品・医療機器]
  - ・感染が急拡大した令和2年3月・4月に個人用防護具を中心に大幅な不足が生じた

##### (2) 新型コロナ感染症以外の一般医療の提供

##### ① 外来診療

- 【評価】・診療を途切れさせなかった

##### ② 入院診療

- 【評価】・県内最大の新型コロナ患者を受け入れながら院内クラスターは1件のみであった
- ・新型コロナ感染症として使用した病棟の一般患者を、他の診療科で分担して受け入れた

##### (3) その他（医療の提供以外の課題）

- ・200床の一般病床をピーク時には147床で運用したことによる、医業収益が悪化した

### III 福岡市民病院における感染症医療について

#### 1 市民病院における感染症医療についての「役割」

##### (1) 感染症に対する医療の提供

###### 【感染症医療機関としての役割】

[外来・入院診療]

- ・感染発生初期から最前線に対応し軽症から重症まで幅広い患者の受入れ

###### 【公立病院としての役割】

[外来診療]

- ・市全体の感染症医療を鑑みた患者の受入体制を構築し、診療・検査を実施

[入院診療]

- ・初期段階から最大限の病床を確保するなど感染症への対応を最優先にした医療体制の構築
- ・強みである高度専門・救急医療と連携した感染症患者の受入れ
- ・新たな治療法をいち早く導入するなど、先進的な感染症医療の提供

##### (2) 感染症発生時における一般医療の提供

外来診療は「通常どおり」の医療提供を、また入院診療は感染症対応を最優先に対応

##### (3) 新たな役割（地域医療への貢献）

- ・市民病院に蓄積された感染症対応の知識・情報を提供することで、クラスター発生を未然に防ぐなど、市内の医療機関・高齢者施設等の感染症対応機能を強化

#### 2 役割を果たすための「取組み」

平時の取組み     感染症発生時の取組み

##### (1) 人員体制の強化

- 有事に備えた市民病院内での臨機応変な人員体制の検討・構築
- 感染管理認定看護師など、有事に備えた市民病院内での人材育成・確保
- 有事に備えた大学病院などからの医師等の応援体制構築のための基準づくりや病院間の連携
- 平時における感染症医療の最適な組織・人員体制の検討・構築
- 局面に応じた医師の最適な配置及び外部からの応援体制
- 局面に応じた看護師の最適な配置及び人材の確保
- 薬剤師、臨床工学技士などと連携したチーム医療の実施

##### (2) 施設・設備の機能向上

- 簡易の陰圧設備の導入や区画を分離できる設備など機動的な施設・設備の検討
- 病院施設の修繕等に合わせた感染症機能の強化
- 臨時の検査場所や患者待機場所など、まん延時を見すえた想定される対応を先行して実施

##### (3) 医薬品・医療機器等の確保

- 有事に備えた医薬品・医療機器等の確保

##### (4) その他

- 施設や人材などの感染症対応能力の向上を目的とした市内の医療機関に対する情報提供
- 事業継続計画（BCP）の見直し
- 安定した経営のための補助金の積極的な活用

#### 3 今後の検討課題

- (1) 今後の国の医療政策の見直しで求められる役割への対応
- (2) 感染症機能を強化する大規模な施設整備
- (3) 感染症サーベイランス機能において担う役割